総合探究Ⅰ　第１回　令和４年５月12日（木）

０．はじめに

入学式から 1 か月が経ちました。実は、まだ一度も実施されていない授業がひとつあることに気づいていましたか？？　この「総合探究Ⅰ」という授業は、国語や数学といった教科には属さない、滝高が独自に実施している「SSH科目」のひとつです。もちろん授業なので、学年末には「５段階の成績」がつくことになります。

では、「総探Ⅰ」とは何をする教科なのか。滝高の探究プログラムの合言葉は、

探究に、疑問なくして視界なし
知識なくして歩みなし
行動なくして喜びなし
協働なくして成熟なし

です。自ら身の回りにある様々な課題を発見し、各教科や学校生活で得た知識をもとに、研究や議論を重ねて解決へと近づくことが「総探ⅠⅡⅢ」での活動となります。そして、滝川高校が育成を目指す８つの力、

考え抜く力（1. 言語を活用する力　2. 知識情報を活用する力　3. 課題を見出す力
4. 課題を解決する力）
協働する力（5. 議論する力　6. 他者と協働する力）
生き抜く力（7. 自ら振り返り自己を変更させる力　8. 挑戦する力）

を、伸ばすことを目指します。

１年生では、前期にスピーチ演習、後期に基礎課題研究（グループ活動）
２年生では、SDGｓについての学習の後、本格的な課題研究（グループ活動）
３年生では、卒業研究（個人研究）

を実施します。課題研究の詳しい話は、後日改めてガイダンスを行います。まずは、今日から４時間、「自分史＆他己紹介プレゼンテーション」を実施します。

１．「自分史＆他己紹介プレゼンテーション」

実施内容

１時間目（本日５月 12 日（木））
- 総合探究スタートアップアンケート
- 班分け（４人ずつ）
- 自分史作成

２時間目（５月 19 日（木））
- 自分史交換
- 他己紹介プレゼンテーション原稿づくり

３時間目（６月２日（木））
- グループ内発表
- グループ組み換え発表

※　１人２回発表。　他の生徒の発表を参考に、次回までにスピーチを修正。

４時間目（6月９日（木））
- 大グループ（10 名程度）内発表

※　この間に、植松電機ロケット実習（５月 30 日、総合探究３時間として実施）が実施されます。

２．評価対象物について

①　ワークシート１「自分史」（担任・副担任による評価）
②　他己紹介プレゼンテーション（生徒による相互評価）
③　振り返りシート

３．評価基準について

評価対象物	観点	A	B	C
①	思・判・表	過去の行動やその時感じたことに加え、当時の自分を振り返り、自己分析が加えられている。	記入要領の指示に従い、過去の行動とその時感じたことについて具体的に書かれている。	過去に困難を乗り越えた経験について書かれているが、具体性にかけ、当時感じたことも読み取れない。
②	知・技	基本形にまとめられた聞きやすいスピーチで、話し方も、聞き手に訴えかける説得力がある。	プレゼンテーションの基本形に従い、内容がまとめられていて、理解しやすいスピーチである。	内容が整理されておらず捉えにくく、話し方も消極的な印象を受ける。
	思・判・表	紹介する人への思いやりや尊敬が感じられ、説得力のあるスピーチとなっている。	紹介する人の長所をアピールしようという姿勢が感じられる。	淡々と、相手のことを説明しているという印象を受ける。
	主体	自分史から見つけ出した長所が、客観的に優れているといえる根拠を付け加えるなどして、説得力のある内容になっている。	自分史から、その人の心情などを読み取り、長所を見つけ出し紹介している。	自分史に書かれている表現を羅列しただけである。
③	主体	自己理解が深まった点について書かれており、他者の長所を見つける過程で気づいた内容について書かれている。	自分史作成と他己紹介を通じて自己理解が深まった点について書かれている。	自己分析がなされておらず、表面的な感想に終始している。

※　このプログラムで育む力

１．言語を活用する力	◎	５．議論する力	○
２．知識情報を活用する力	・	６．他者と協働する力	○
３．課題を見出す力	・	７．自らを振り返り自己を変容させる力	◎
４．課題を解決する力	・	８．挑戦する力	○

４.「自分史」の書き方

「自分史」という名前になっていますが、生まれてから今までの出来事を時系列に沿って羅列するのではありません。これまでの自分を思い返してみたときに、「困難を乗り越えた」といえる出来事をいくつか選び、その出来事にどう立ち向かったのかを書いてください。辛い出来事や、人に言いたくない過去を書く必要はありません。自分が輝いていた瞬間だけをピックアップします。

「そのときの自分の行動や思い」の欄に書かれた内容をもとに、他己紹介の原稿を作成することになります。なるべく具体的に、たくさん書いてください。

【記入例】

年齢	できごと	そのときの自分の行動や思い
１４歳	全日本合唱コンクールの全国大会に出場した。	・夏休みの練習は厳しかったけど、1 日も休まずに参加した。 ・自分たちの世代で、全国大会連続出場を止めてはいけないと思い、他のどの学校にも負けない集中力で練習に臨むと決めていた。 ・パート練習では、全員が上手に歌えるようになれるよう、3 年生で練習方法を工夫した。 ・毎日、全国大会で金賞をとるような学校の CD を聞き、自分たちの録音と比べて、改善点を探した。 ・先生が課してくる無理難題にも、絶対に「無理」と言わなかった。 ・うまく歌えないフレーズがあれば、100 回でも繰り返し練習した。
１５歳	全国大会には出場できなかった。	・部員数が 70 名から 45 名に減り、個人のスキルアップが不可欠になった。自分の苦手な音域や発音が多い曲を歌うことになったので、発声方法を見直して、曲の音域に対応できるよう練習した。イタリア語の発音は、イタリア語講座を聞いて確認した。 ・コンクール前にできることは全てやった。2 か所だけ、完璧と言えない部分が残ったけど、絶対に失敗しないという気持ちを持って本番に臨んだ。 ・本番も全力が出し切れた。結果はダメだったけど。受け入れるしかなかった。

※　この人は「理想の合唱部員」。こんな凄い奴はいなかった・・・・。

５.　スピーチ原稿の書き方

他己紹介では、紹介する人の「良いところを見つけて紹介」してください。自分自身のことなら、「そんなすごくないよ・・。自分で言うのはちょっと恥ずかしいし無かったことにしようかな・・・」と遠慮しそうな部分を、遠慮ゼロでがっつりアピールしてあげましょう！

受け取った「自分史」で物足りないと感じたり、疑問点がみつかったりした場合は、事前に質問しましょう。サンプルの場合、紹介する相手が合唱部に所属していて全国大会出場を目指してということはすぐに解ります。でも、練習に対する取り組み方と気持ちのことばかり書かれているので、部活内での役割や後輩の面倒を見たかどうかなどは読み取れません。そこを取材で補います。

【質問の例】

- 先生の課してくる無理難題とは、どんな内容ですか。
- 部活では、何か役職を担当したのですか。
- 同学年の部員に伝えたい感謝の言葉などはありませんでしたか。
- 後輩はどんな存在でしたか。
- 全国大会出場をサポートしてくれたのは誰で、どうしてそう思うのですか。

などなど。

【原稿づくりのルール】

- スピーチの時間は、２分 30 秒以上、３分 30 秒以内とする。
- 紹介する相手を否定する内容は含めない。
- 最初に「〇〇さんは、▲▲▲▲な人です。」のように、結論から書き始める。
- 「結論」　→　「根拠となる出来事の紹介」　→　「自分が▲▲▲▲だと感じた理由」　→　「まとめ」

  ※「まとめ」は、「結論」＋「以上〇〇さんの紹介できた」程度でよい
- 原稿を読むのではなく、聞き手に「話す」のがスピーチ